

日立ダイアグノスティックツール
取扱説明書

HDM-330



このたびは、日立ダイアグノスティックツール HDM-330をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品の十分な活用と安全なご使用のために、取扱説明書はいつも手元におき、よくお読みいただいたうえで
ご使用ください。

もくじ

安全上のご注意	1
使用上のご注意	4
構成部品一覧	5
本体各部の名称と働き	6
仕様・ご使用になる前に	7
ユーザー登録と診断ソフトのインストール (アップデート)	
1. ユーザー登録	8
2. 診断ソフトのインストール (アップデート)	10
準備	
1. 接続	11
2. 機能説明	11
設定	
1. 言語の設定	12
2. コントラストの設定	12
3. 時計の設定	13
本体 ID	
本体情報の確認	13
診断	
1. 故障コードの読取	14
2. 故障コードの消去	15
3. データモニタ	15
4. 監視システムのテスト値	16
データ保存	
1. 故障コードの保存	17
2. データモニタの保存	17
履歴	
1. 故障コードの再生	18
2. データモニタの再生	19
3. 保存データの消去	19

その他の操作

1. 「全自己診断」の故障コードの読取	20
2. 「全自己診断」の故障コードの消去	22
3. 全自己診断のデータ保存	23
4. 作業サポート	23
5. カスタマイズ	25

メンテナンスモード

メンテナンスモード	27
-----------	----

トラブルシューティング

ホームページのご案内	33
保証・お問い合わせ先	34

安全上のご注意 (必ずお守りください。)

取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■表示内容を見逃して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の絵表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

(下記は絵表示の一例です。)



この絵表示は、注意(警告を含む)しなければならない内容です。



この絵表示は、禁止(やってはいけないこと)の内容です。



この絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (必ずお守りください。)









警告





<p>ギアがパーキング(MT車の場合ニュートラル)になっていることを確認する 測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p>サイドブレーキが確実に引かれていることを確認する 測定中に車が動いてしまい、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p>小さいお子様の手の届かない場所で使用、保管する 事故やけが、感電の原因となります。</p>	
<p>作業サポートおよびカスタマイズは、カーメーカー発行の整備マニュアルにより作業内容を十分理解した上で、正しい手順で行なうこと 使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。</p>	
<p>本体に供給する電源電圧は32V以下とする 破壊、感電、発火する場合があります。</p>	
<p>暗い場所で作業を行わない 事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。</p>	
<p>ぬらしたりしない 火災や感電の原因となります。</p>	
<p>故障のまま使用しない 画面が表示されない、スイッチが操作できないなどの故障の状態でご使用しないでください。すぐにご使用を中止してお買上げの販売店にご相談ください。 そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。</p>	
<p>USB端子を指で触れたり異物を入れない 事故や感電、火災、本製品の故障、破損の原因となります。</p>	
<p>直射日光があたる場所や高温になる場所に置いたり、炎天下の車室内に放置しない 火災や感電、故障などの原因となります。</p>	
<p>運転者は運転中にこの製品を使用しない 交通事故の原因になります。 運転者が使用する場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所に止めてから使用してください。</p>	
<p>異常のまま使用しない 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするときは、すぐにご使用を中止してください。また、お買上げの販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。</p>	

安全上のご注意 (必ずお守りください。)

警告

ケーブルの被覆が破れた状態で使用しない 火災や感電の原因となります。	
分解や改造はしない 火災や感電、故障などの原因となります。	
整備の際、排気部などのエンジンの高温部分に触れないように注意する やけどの原因となります。	 
ケーブルに足を引っかけて転倒しないように注意する けがの原因となります。	
整備の際、手や手袋、衣服などが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する けがの原因となります。	

注意

本製品を長期間使用しない場合は車両から取り外す 車両バッテリーの消耗および発火の原因となります。	
本体画面表示部をたたいたり、強く押したり傷をつけたりしない 画面表示部の故障、破損の原因となります。	
本体やケーブルが、エンジンのベルトなどの回転部分に巻き込まれないように注意する ショートや断線により、事故や感電、火災、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。	
本体やケーブル類が、排気部等のエンジンの高温部分に触れないように注意する 事故、本製品や自動車の故障、破損の原因となります。	

使用上のご注意

- 端子部分にエンジンオイルなどを付着させないでください。接触不良の原因となります。
- エンジンオイル、ガソリン、不凍液およびバッテリー液を本体に付着させないでください。本体表面の変質の原因となります。
- アルコールを含む液体で本製品をふかないでください。割れの原因となります。
- イグニッションキーONの状態でもBDIIコネクタを抜かないでください。故障の原因となります。
- 気温0℃～50℃、湿度85%以下の環境でご使用ください。
- ケーブルの被覆が破れた場合は、ショートのおそれがありますので、ご使用を中止し新しいものに交換してください。
- 本体は防水されていませんので、水に濡らさないでください。

取り扱いについて

- 衝撃を与えないでください。
本製品を落下、たたかなどして衝撃を与えると故障の原因となります。
- ケーブルを無理に引っ張らないでください。
BDIIコネクタやUSBケーブルを外す際など、ケーブルを無理に引っ張ると断線など故障の原因となります。外す際は、コネクタを持って外してください。

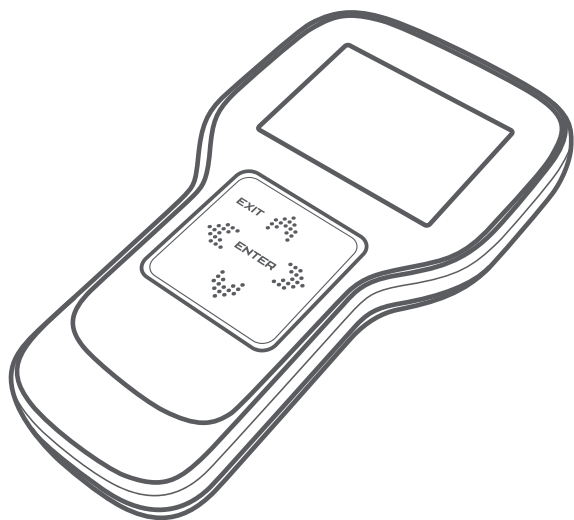
保管場所について

- 下記の場所には保管しないでください。
 - ・水のかかる場所
 - ・強い衝撃が加わる場所
 - ・気温-20℃以下70℃以上、湿度85%以上の場所
 - ・結露のある場所
 - ・直射日光のあたる場所

構成部品一覧(ご使用前に必ずご確認ください。)

本製品には、下記のものと同梱されています。ご使用前にご確認ください。
万一、不足している場合や破損している場合は、すぐに販売店にご連絡ください。

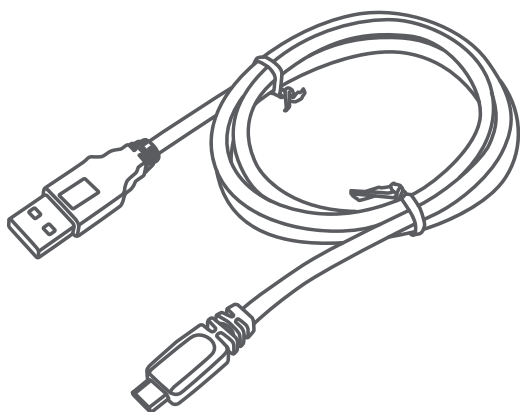
①HDM-330本体…1台



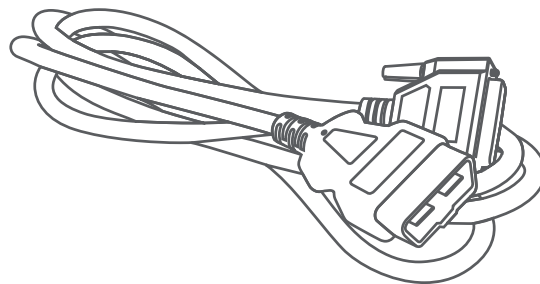
②クイックスタートガイド…1枚



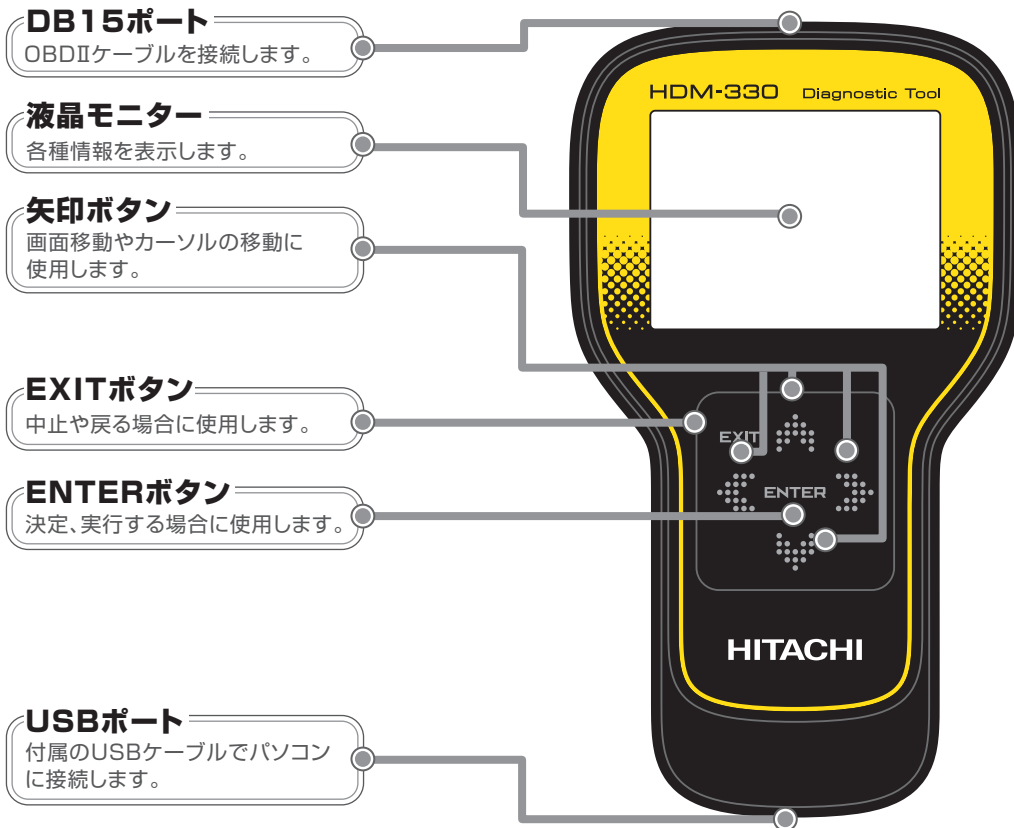
③USBケーブル…1本



④OBDIIケーブル…1本



本体各部の名称と働き



画面説明



仕様

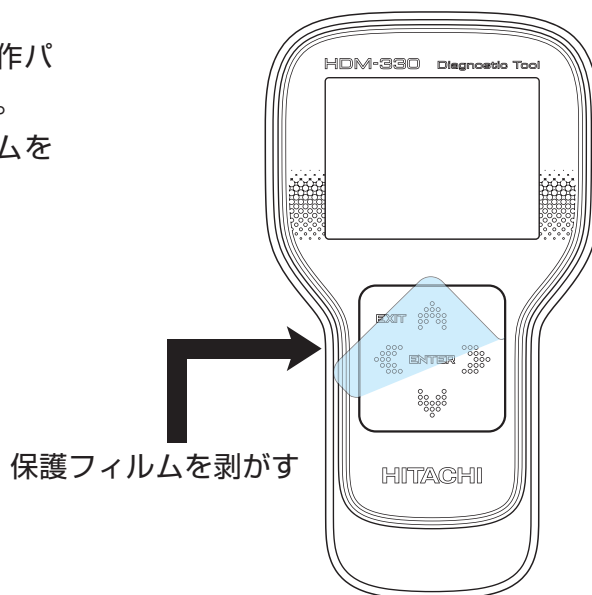
本体仕様

① 表示部(LCD)	2.8インチ(320RGB 240pixels) TFTカラー液晶
② OS	FreeRTOS
③ 操作キー	ENTER/EXIT/↑/↓/→/←
④ 標準I/F	CAN (ISO-11898,ISO-11519) K-Line/L-Line (ISO-9141,ISO-9141-CARB,KWP2000) Generic (pull-up,UART×2),DDL,MMC
⑤ PCI/F	USB2.0(OTG)high-speed
⑥ CPU	ARM Cortex M4 180MHz
⑦ ROM(OS)	512KB
⑧ ROM(AP)	4GB(micro SDHC)
⑨ RAM	128KB+32MB
⑩ 内蔵電池	CR1225(Lithium)
⑪ 電源電圧	DC10~32V
⑫ 使用温度範囲	0~50℃
⑬ 保存温度範囲	-20~70℃
⑭ 湿度	20~85%rh(ただし結露のないこと)
⑮ 本体サイズ	90mm(W)×160mm(H)×27mm(D)
⑯ 本体質量	147g

※製品仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ご使用になる前に

- 本製品の製造出荷時は、本体前面の操作パネルに保護フィルムが貼られています。製品をご使用になる前に、保護フィルムを剥がしてください。



ユーザー登録と診断ソフトのインストール(アップデート)

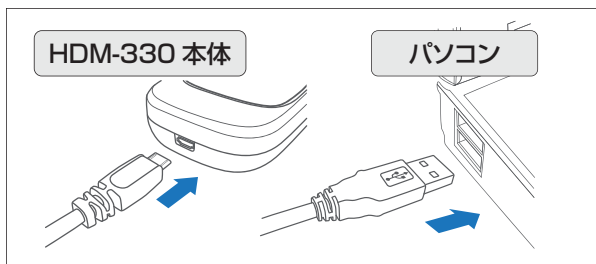
出荷時に診断ソフトはインストールされていません。

ご使用前に必ずユーザー登録を行った上で、最新ソフトへアップデートを行ってください。

1. ユーザー登録

※パソコンの操作は Windows8 の場合です。

- ① HDM-330 とパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。



- ② パソコンの画面に自動再生が表示されます。「フォルダを開いてファイルを表示」をクリックしてください。



パソコンの設定で自動再生が機能しない場合は9ページの※1. 自動再生が機能しない場合をご覧ください。

- ③ 「HDM330」フォルダ内にある HDM330Downloader.exe をダブルクリックしてください。サーバーから HDM330 アップデートツール(HDM330.exe) がダウンロードされます。



- ④ HDM-330 アップデートツール (ユーザー登録情報) が表示されます。ユーザー情報を入力してください。

- ⑤ 入力後、「ユーザー情報登録」ボタンをクリックします。



ユーザー登録画面の入力欄は全て入力してください。未入力欄があると送信できません。また、メールアドレスを間違えると「HDM-330 仮登録完了のお知らせ」が届きませんので、間違えないように必ず半角英数文字で入力してください。入力が正しくないと同様に「送信できません」のメッセージが表示されます。

ユーザー登録と診断ソフトのインストール(アップデート)

⑥ 「アクティベートを行います」が表示されたら、メッセージ内の「OK」ボタンをクリックします。

⑦ ユーザー情報で入力したメールアドレスに「HDM330 仮登録完了」のメールが送信されます。本文中の URL (リンク情報) をクリックします。



「HDM-330 仮登録完了のお知らせ」が届かない場合は、メールアドレスの間違いや「迷惑メール」フォルダなどをご確認ください。

また⑥で複数回「ユーザー情報登録」ボタンを押した場合は、その回数分メールが配信されますので、最新の「HDM-330 仮登録完了のお知らせ」のリンクをクリックしてください。

アップデート期間が表示されていれば認証完了になります。登録した情報は 2 年目以降の更新申込時に必要になります。印刷や保存などして大切に保管してください。

⑧ 「登録を完了しました」のメッセージが表示されます。

以上でユーザー登録が完了しました。

続いてアップデート (10 ページ) にお進みください。



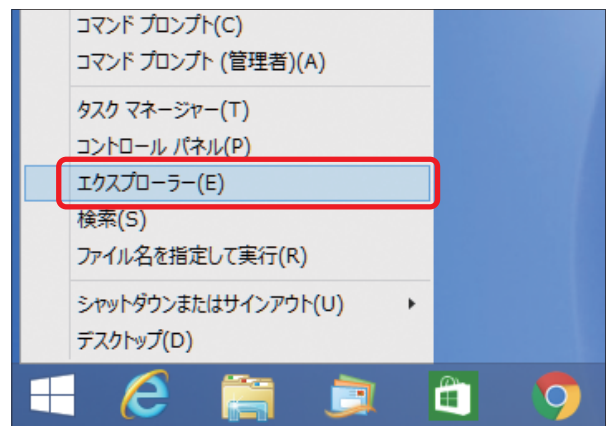
登録内容の変更について

使用者 (会社) やメールアドレスに変更がある場合はユーザー登録内容の変更を行ってください。登録内容変更は、ユーザー情報編集より行います。変更があった欄だけでなく、入力欄は必ず全て入力してください。未入力欄がありますと送信できません。

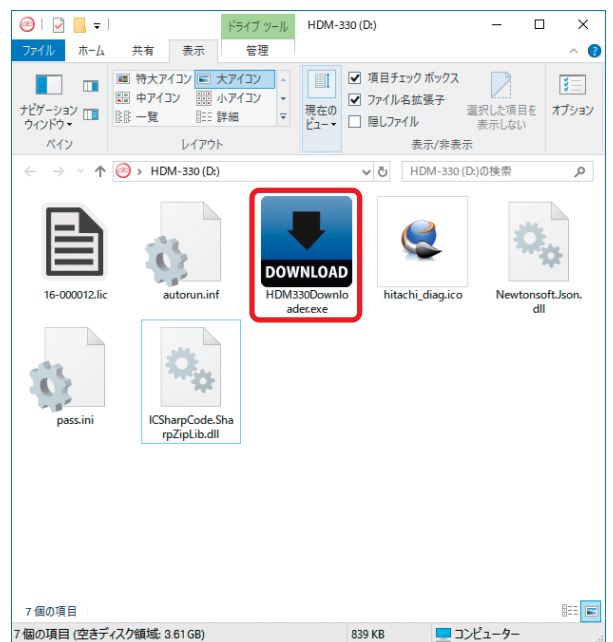
※ 1. 自動再生が機能しない場合

パソコンの設定で自動再生が機能しない場合は手動でパソコンのドライブを開き下記の手順で「HDM330Downloader.exe」を実行する必要があります。

① Windows8/8.1/10 の場合は、画面下のツールバーから [エクスプローラー]-[PC]-[HDM330] を開きます。(Windows7 の場合は [スタート]-[コンピューター]-[HDM-330] を開きます。)



② [HDM-330] の中の「HDM330Downloader.exe」をダブルクリックして起動します。



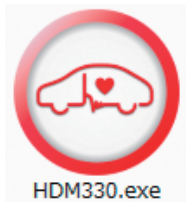
ユーザー登録と診断ソフトのインストール(アップデート)

診断ソフトのインストール(アップデート)を行う場合は、以下の手順で行ってください。

2. 診断ソフトのインストール(アップデート)

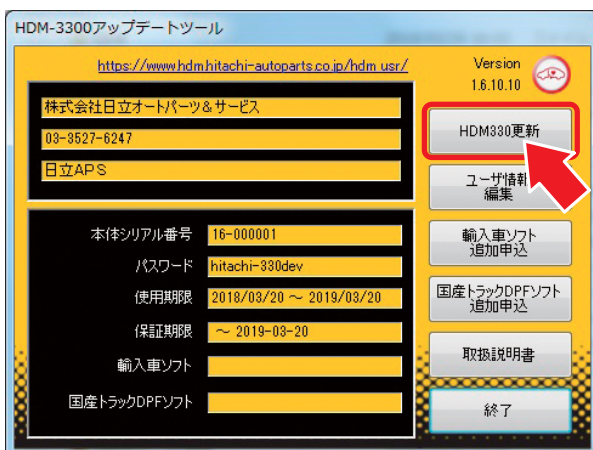
※パソコンの操作は Windows8 の場合です。

- ① HDM-330 とパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。(8 ページ①の図参照)
- ② パソコンの画面に自動再生が表示されます。「フォルダを開いてファイルを表示」をクリックしてください。(8 ページ②の図参照)
- ③ 「HDM330」フォルダ内にある HDM330.exe をダブルクリックしてください。



パソコンの設定で自動再生が機能しない場合は9ページの※1.自動再生が機能しない場合をご覧ください。

- ④ HDM-330 アップデートツール(ユーザー登録情報)が表示されます。HDM-330 更新をクリックします。

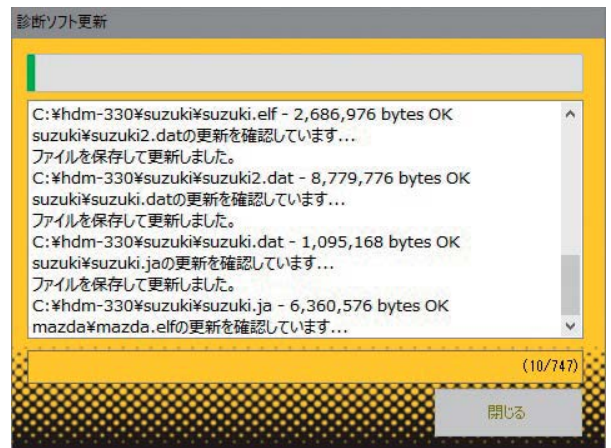


- ⑤ アップデートが始まり HDM-330 診断ソフトが書き込まれます。



「書き込み出来ません」などのエラーが発生してアップデートが開始されない場合は28ページのトラブルシューティングをご覧ください。

- ⑥ 「アップデート完了」が表示されましたら、「閉じる」をクリックしてパソコンから HDM-330 本体を取り外してください。



HDM-330 本体のパソコンからの取り外しは、本体内のファイルの破損を防止するため、以下の手順で行ってください。

- ①パソコン上の HDM330 フォルダを閉じてください。
- ②パソコンのタスクトレイの取り外しアイコンをクリックしてください。
- ③「J-OBDII SCAN TOOL の取り外し」をクリック。
- ④「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、HDM-330 本体をパソコンから取り外してください。

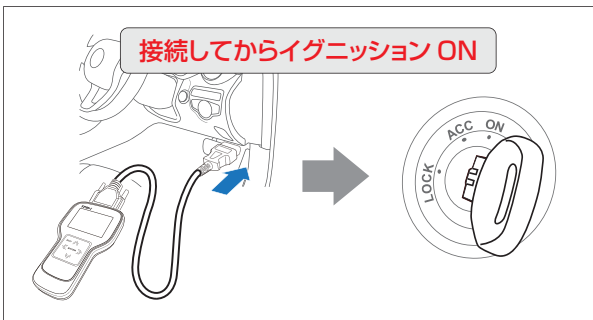
準備



- ・ソフトのアップデートを行い最新の状態でご使用ください。
- ・本体やケーブルに破損や損傷などがなければ確認してください。
- ・診断は基本的にイグニッション“ON”の状態で行ってください。
- ・診断がうまくいかない場合はコネクタの接続やイグニッションが ON であるか確認してください。
- ・診断を終了する際は「メインメニュー」画面まで戻りイグニッションを OFF にして取外してください。

1. 接続

- ① 車両がイグニッション OFF であることを確認して HDM-330 を接続しイグニッション ON にします。



- ② メインメニューが表示されます。



2. 機能説明

- ① メニューを選択します。(左②の画面)
各機能説明を参考にメニューを決定してください。

	診断 車両の DTC 読取・消去などを行います。 解説：14～16 ページ
	メンテナンスモード メンテナンス機能（バッテリー交換やオイル交換など）が集約されています。 解説：27 ページ
	履歴 保存したデータの再生および消去ができます。 解説：18～19 ページ
	設定 言語切替えなどの本体設定を変更できます。 解説：12～13 ページ
	本体 ID 本体 ID（シリアル番号）、ダウンロードおよび保証期間を確認できます。 解説：13 ページ

設定



言語切替えなどの本体設定を変更できます。

※ OBD II ケーブルで HDM-330 を車両と接続した場合に実行できます。

1. 言語の設定

① 「設定」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



② 「言語」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



③ 上下矢印ボタンで言語を選択して [ENTER] ボタンを押して確定します。

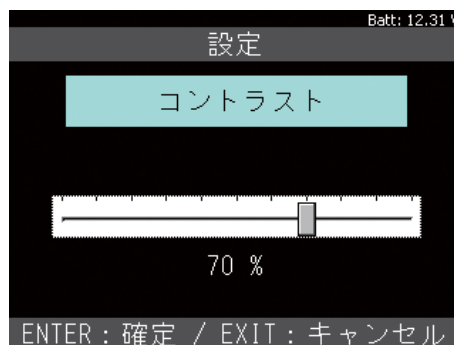


2. コントラストの設定

① 「コントラスト」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



② 上下矢印ボタンで 10%、左右矢印ボタンで 1% ずつ調整できます。調整後、[ENTER] ボタンを押して確定します。



設定

3. 時計の設定

- ① 「時計」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② 上下矢印ボタンで変更、左右矢印ボタンでカーソルが移動します。設定後 [ENTER] ボタンを押して確定します



本体ID



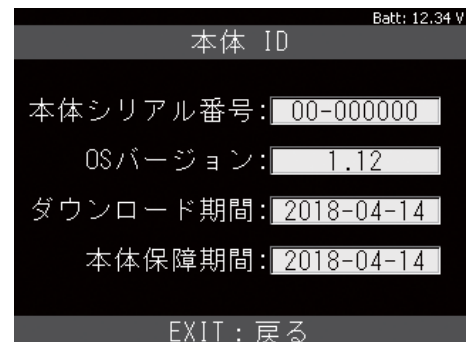
本体 ID (シリアル番号)、アップデートおよび保証期間を確認できます。

1. 本体情報の確認

- ① 「本体 ID」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② 本体情報が表示されます。



診断



故障コードの読取やデータモニタなどを行います。

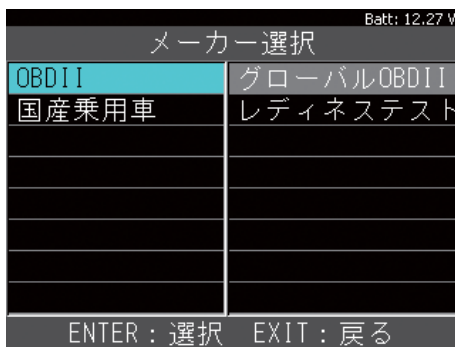
1. 故障コードの読取

※OBDIIソフトの場合

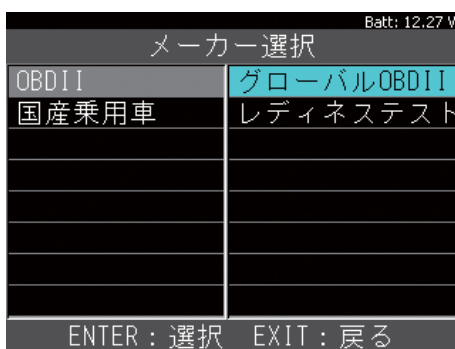
① 「診断」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



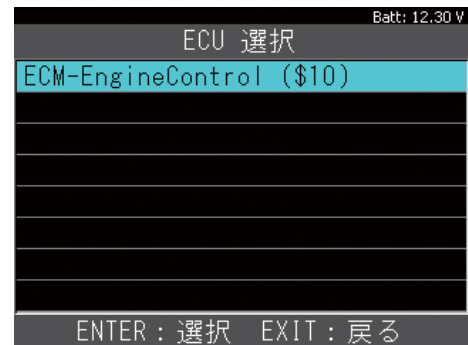
② 「OBDII」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



③ 「グローバル OBDII」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



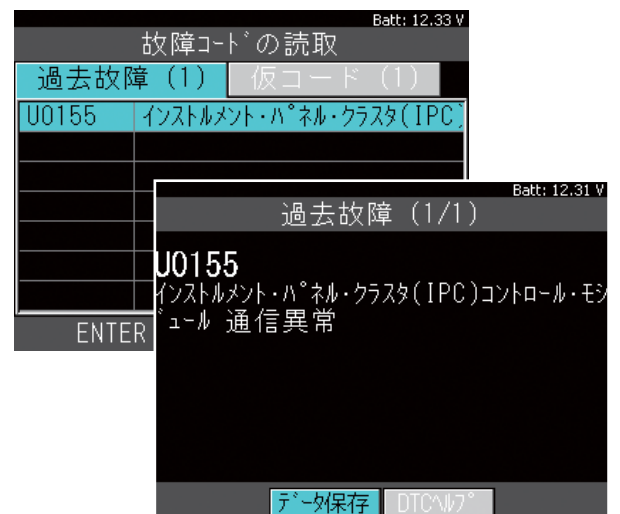
④ OBDII規格を搭載したコントロールユニットを検出します。ユニットを選択して [ENETR] ボタンを押します



⑤ 「故障コードの読取」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



⑥ 故障コードと内容が表示されます。内容が全文表示されていない場合は [ENTER] ボタンを押すと全文表示されます。



詳細表示画面では「データ保存」ができます。保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは 18 ページをご覧ください。

2. 故障コードの消去

※OBDⅡソフトの場合

- ① 「故障コードの消去」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② 消去の実行は [ENTER] ボタンを押します。消去はイグニッション ON で行います。



- ③ 消去が完了すると以下の画面が表示されます。[EXIT] ボタンを押して戻ります。



消去できない場合は、現在も故障が発生しており、現在故障としてコードがメモリされている可能性があります。

3. データモニタ

※OBDⅡソフトのみ

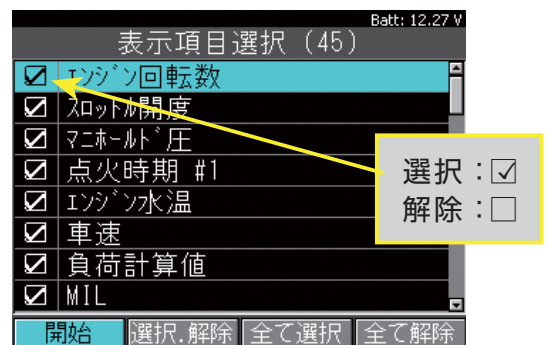
- ① 「データモニタ」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② 「リスト表示」または「グラフ表示」のいずれかを選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ③ 表示選択項目が表示されます。全項目にチェックが入った状態で表示されます。[開始]を選択して [ENTER] ボタンを押すとチェックが入っているすべての項目が表示されます。



[選択・解除] → 1項目ずつ変更できます。

[すべて選択] → すべての項目が選択されます。

[すべて解除] → すべての項目が解除されます。



1項目ずつ変更する場合は、左右ボタンで [選択・解除] にカーソルを合わせてから上下ボタンで変更したい項目に合わせて [ENTER] ボタンを押します。[ENTER] ボタンを押す度に選択、解除が切替わります。



診断

- ④ 選択した項目が表示されます。
(図はリスト表示の場合)

データモニタ	
エンジン回転数	0 RPM
スロットル開度	16.9 %
マニホールド圧	100.0 kPA
点火時期 #1	0.00 °
エンジン水温	25 °C
車速	0 km/h
負荷計算値	0.0 %
MIL	OFF

[上下] ボタンで 1 項目ずつ表示がスクロールします。

左右ボタンでカーソルを画面下左右の

  ボタンに合わせ、選択いただくとページの移動ができます。

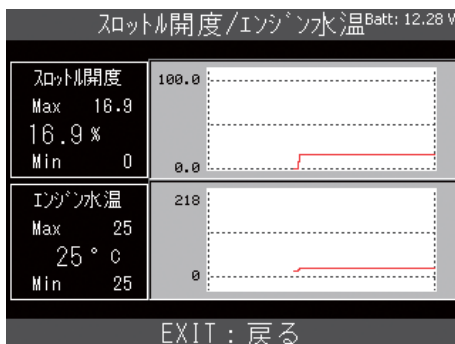
データモニタ	
MIL	OFF
過去故障	0
失火モニタ	COMPLETE
燃料系モニタ	COMPLETE
構成部品モニタ	COMPLETE
触媒モニタ	NOT COMPL
加熱触媒モニタ	NOT SUPP
エバポレータモニタ	NOT SUPP



リスト表示画面では「データ保存」ができます。
保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは 18 ページをご覧ください。

下図はグラフ表示の場合です。

最大 2 項目の選択、表示となります。



※ グラフ表示では保存はできません。

4. 監視システムのテスト値 ※OBDIIソフトのみ

- ① 「監視システムのテスト値」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② テスト表示項目を選択して [ENTER] ボタンを押します。

監視システムのテスト値	
O2センサモニタ B1S1	
O2センサモニタ B1S2	
触媒コンバータ B1	
VVT モニタ B1	
シリンダ-1 ミスファイア検知	
シリンダ-2 ミスファイア検知	
シリンダ-3 ミスファイア検知	

※ 車両によっては「サポートしていません」が表示されます。

- ③ 選択した項目のテスト値が表示されます。

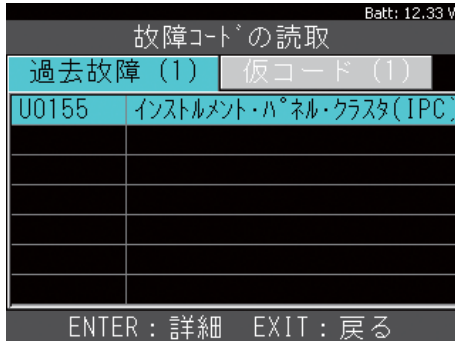
シリンダ-1 ミスファイア検知	
ミスファイア検知; EWM	現在値: 0 counts
ミスファイア検知; 加	最小値: 0 counts
	最大値: 0 counts

データ保存

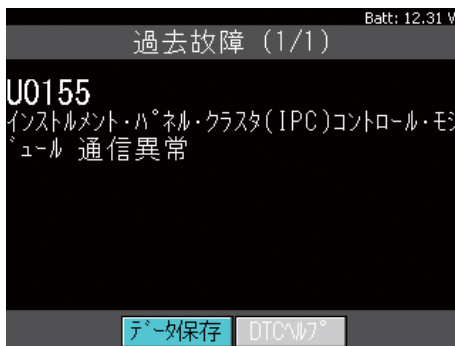
1. 故障コードの保存

※OBDIIソフトの場合

- 故障コード一覧から選択して [ENTER] ボタンを押します。



- 詳細表示画面から [データ保存] を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- データが保存されると保存されたファイル名 (例: OBDII_DTC-002) が表示されます。



Hint 保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは 18 ページをご覧ください。

2. データモニタの保存

※OBDIIソフトの場合

- データモニタ表示画面から [データ保存] を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- データの保存が開始されます。
[ENTER] または [EXIT] ボタンを押すまで保存し続けます。ボタンを押すと保存を終了します。



- データが保存されると保存されたファイル名 (例: OBDII_Datastream-008) が表示されます。



Hint 保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは 18 ページをご覧ください。

履歴



保存したデータの再生および消去
ができます。

1. 故障コードの再生

① 「履歴」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



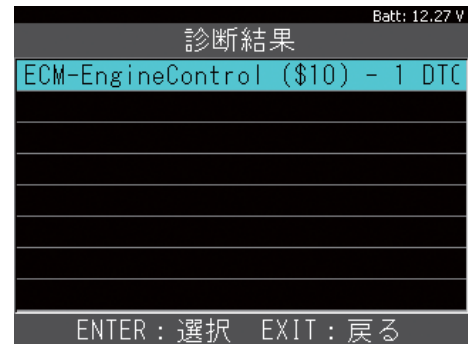
② 「再生」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



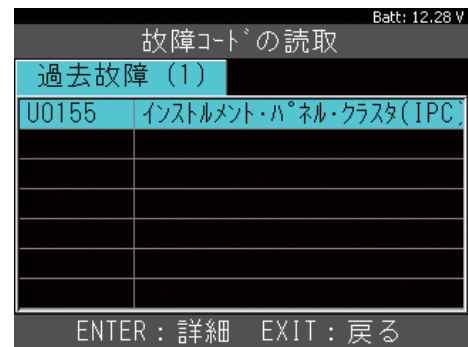
③ 表示するファイルを選択して [ENTER] ボタンを押します。
(「XXX_DTC_XXX」が故障コード保存データです。)



④ 保存したデータのシステムが表示されますので、
選択して [ENTER] ボタンを押します。



⑤ 保存したデータが表示されます。

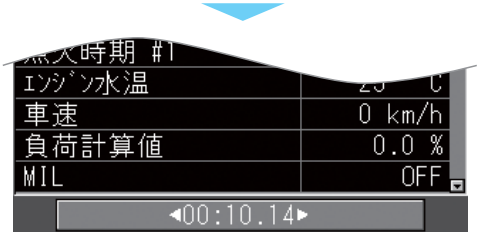
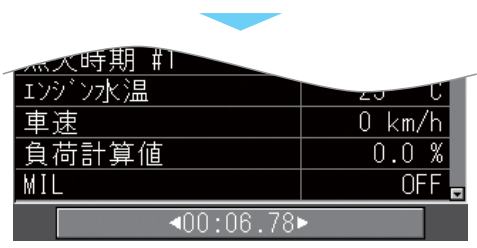


2. データモニタの再生

- ① 「履歴」メニューから「再生」を選択して [ENTER] ボタンを押します。(18 ページ参照)
- ② 表示するファイルを選択して [ENTER] ボタンを押します。
(「XXX_DATASTREAM_XXX」がデータモニタ保存データです。)



- ③ 表示項目選択が表示されます。表示したい項目の選択を行った後、開始を選択して [ENTER] を押ししてください。保存データが表示されます。左右矢印ボタンを押すと、保存したデータがコマ送りで表示できます。



3. 保存データの消去

- ① 「履歴」メニューから「削除」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



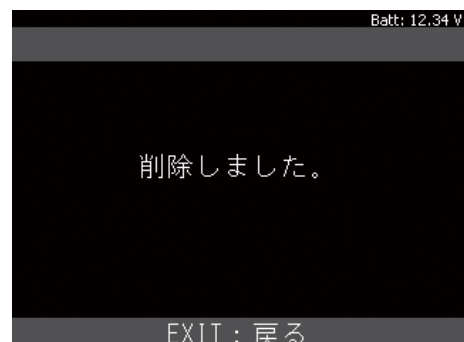
- ② [選択・解除] [全て選択] [全て解除] を選択して削除するファイルに☑を入れます。



- ③ [開始] を選択して [ENTER] ボタンを押して削除を実行します。



- ④ 保存データが削除されました。



その他の操作

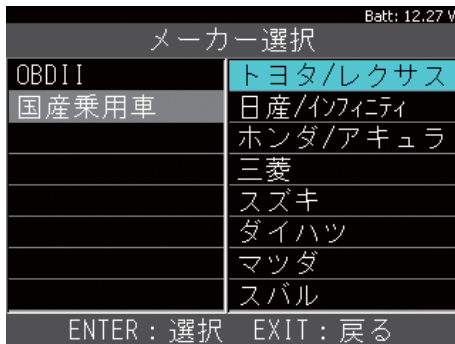
1. 「全自己診断」の故障コードの読取

各メーカーソフトで診断方法が異なります。
以下はトヨタ診断ソフトの例です。

- ① 「診断」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② メーカー選択画面から「トヨタ / レクサス」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ③ 「地域設定」画面から地域を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ④ 「自動検出」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



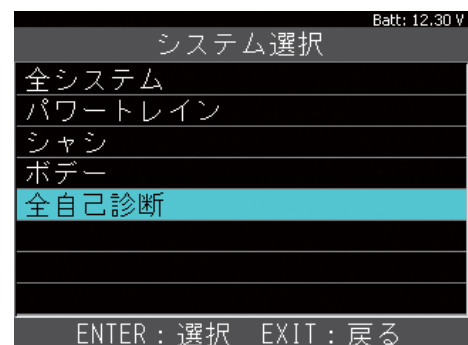
- ⑤ 「ブランド」「車名」「型式」等を [ENTER] ボタンを押して順に選択していきます。



- ⑥ トヨタ診断ソフトのメインメニューが表示されます。「診断」を選択して [ENTER] ボタンを押します。

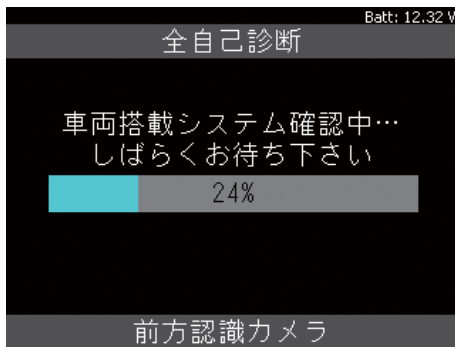


- ⑦ 「全自己診断」を選択して [ENTER] ボタンを押します。

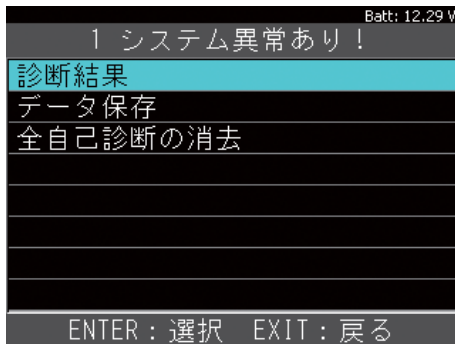


その他の操作

- ⑧ 車両の各システムの故障コードを自動で読取ります。



- ⑨ 全自己診断完了の画面です。各システムの故障コードの有無は「診断結果」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ⑩ 診断結果が表示されます。



故障コードがない場合は「OK」が表示されます。故障コードがある場合はメモリされている数が表示されます。故障コードの確認はシステムを選択して [ENTER] ボタンを押します。

- ⑪ 「故障コードの読取」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ⑫ 故障コードと内容が表示されます。(例：P1604 始動不良) 故障コードを選択して [ENTER] ボタンを押すと詳細表示されます。



- ⑬ 詳細表示画面では「データ保存」ができます。



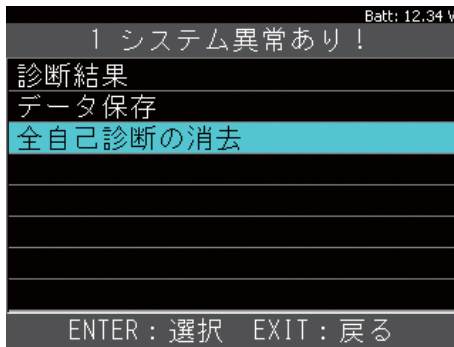
保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは 18 ページをご覧ください。

その他の操作

2. 「全自己診断」の故障コードの消去

各メーカーソフトで操作方法が異なります。
以下はトヨタ診断ソフトの例です。

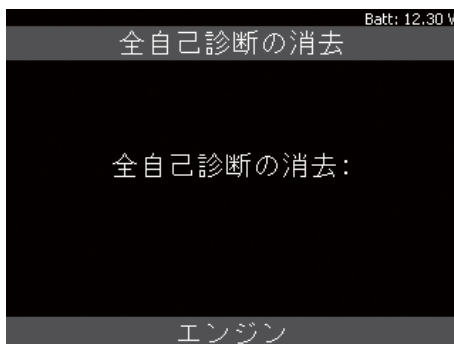
- ① 全自己診断完了画面から「全自己診断の消去」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



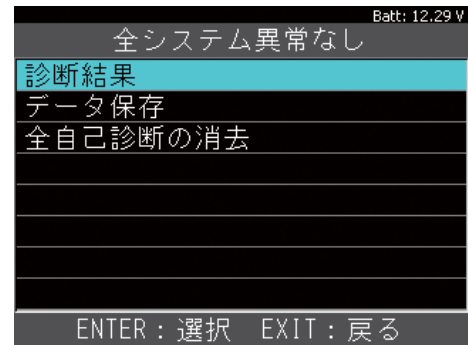
- ② [ENTER] ボタンを押して実行します。
消去は**イグニッション ON**で行います。



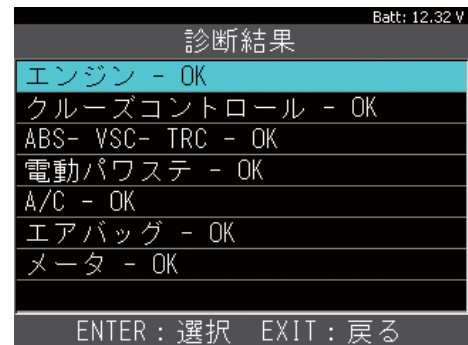
- ③ 各システムの故障コードを消去していきます。



- ④ 全自己診断の消去が完了すると、全自己診断完了画面に戻ります。



- ⑤ 「診断結果」から全てのシステムが「OK」になっていれば消去完了です。



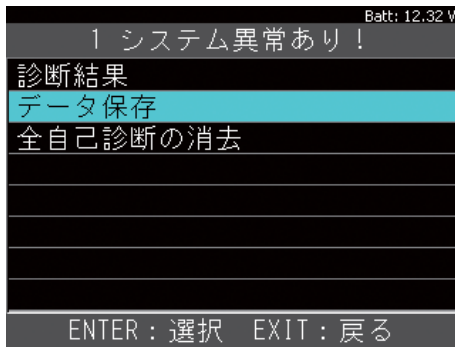
消去できない場合は、現在も故障が発生しており、現在故障としてコードがメモリされている可能性があります。

その他の操作

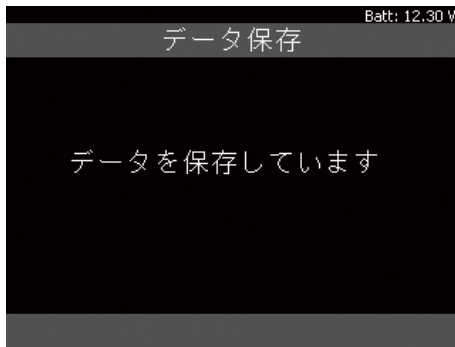
3. 全自己診断のデータ保存

各メーカーソフトで操作方法が異なります。
以下はトヨタ診断ソフトの例です。

- ① 全自己診断完了画面から「データ保存」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② データ保存中です。



- ③ データが保存されると保存されたファイル名 (例: Toyota_DTC-002) が表示されます。



Hint 保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは 18 ページをご覧ください。

4. 作業サポート

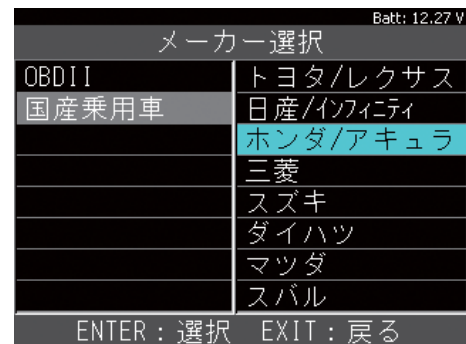
注意：作業サポートは、カーメーカー発行の整備マニュアルにより作業内容を十分理解した上で、正しい手順で行ってください。

各メーカーソフトで操作方法が異なります。
以下はホンダ車の「カーボン堆積補正值クリア」の例です。

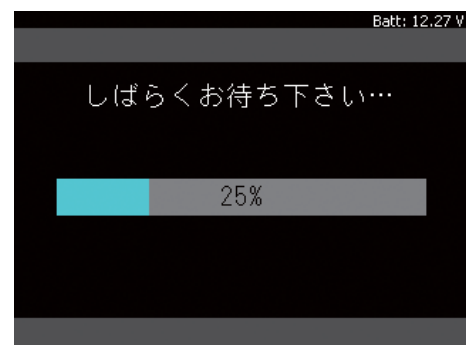
- ① 「診断」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② メーカー選択画面から「ホンダ / アキュラ」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ③ ホンダソフトが起動して車両の検出が始まります。



その他の操作

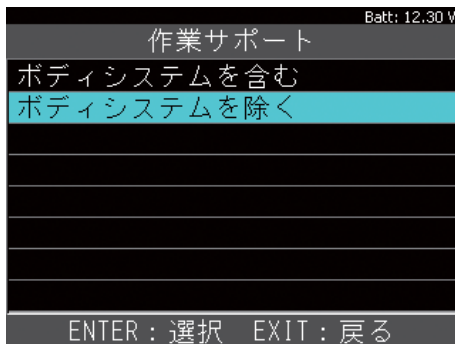
- ④ 車両が検出されました。
[ENETR] ボタンを押して次へ進みます。



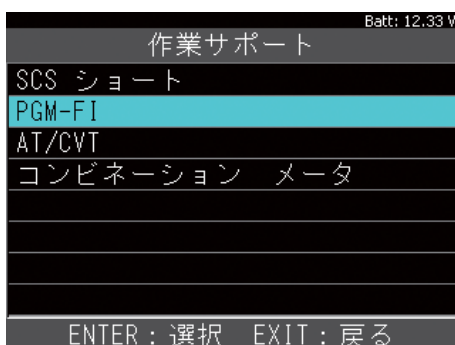
- ⑤ 「作業サポート」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



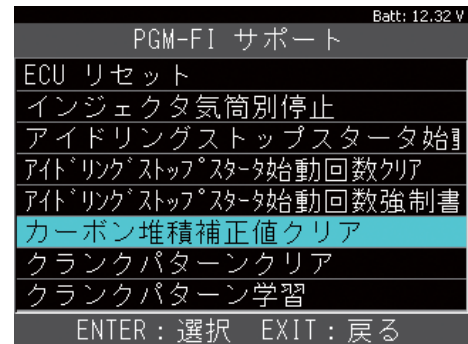
- ⑥ 目的に応じてどちらか選択します。



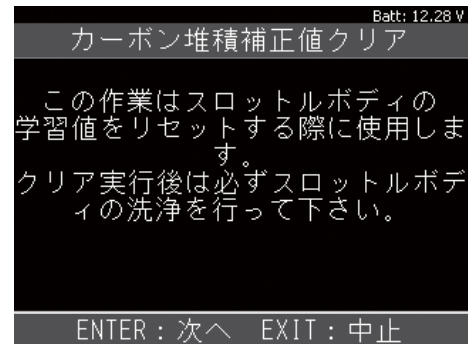
- ⑦ 「PGM-FI」(エンジン)を選択して [ENTER] ボタンを押します。



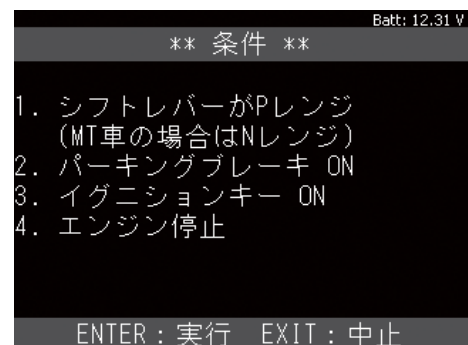
- ⑧ 「カーボン堆積補正值クリア」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



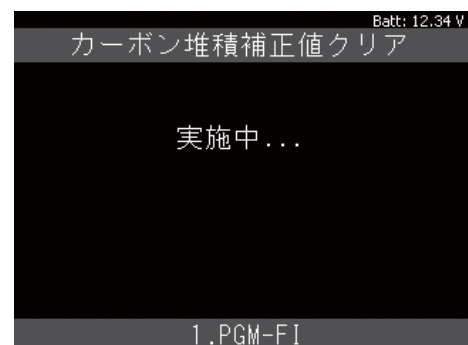
- ⑨ 機能説明が表示されます。
確認して [ENETR] ボタンを押します。



- ⑩ 実行可能条件が表示されます。
確認して [ENETR] ボタンを押します。



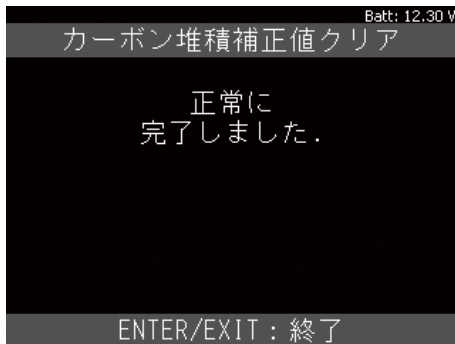
- ⑪ リセット実施中です。



その他の操作

⑫ 正常に完了しました。

[ENTER] ボタンを押して終了します。



5. カスタマイズ

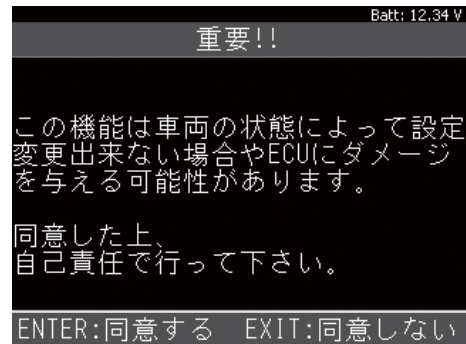
カーメーカー発行の整備マニュアルにより作業内容を十分理解した上で、正しい手順で行ってください。

カスタマイズ機能はメーカーにより異なります。以下はトヨタ車の「フラッシュ音量調整」の例です。

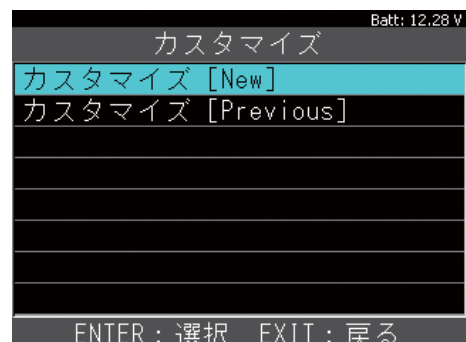
- ① 20 ページを参考にトヨタ診断ソフトのメインメニューまで進みます。「カスタマイズ」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ② 注意事項が表示されます。確認して [ENTER] ボタンを押します。

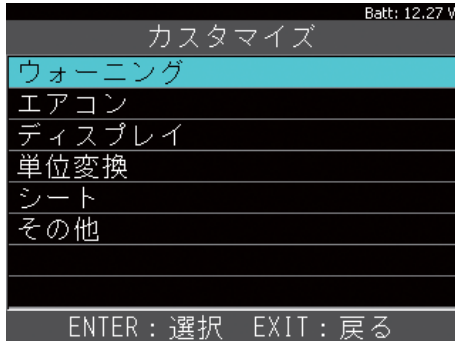


- ③ 「New」(新規で実行する項目) と 「Previous」(過去の履歴) が表示されます。通常は 「New」を選択して [ENTER] ボタンを押します。

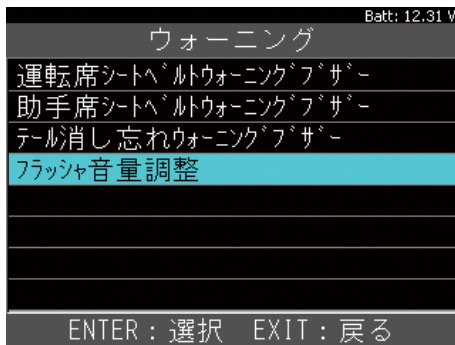


その他の操作

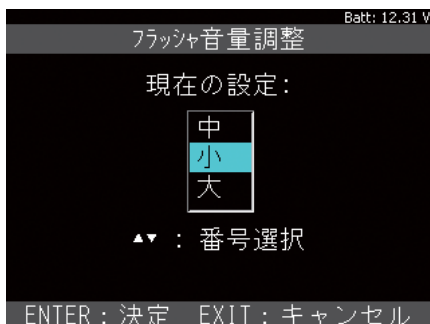
- ④ カテゴリー別に表示されます。
「ウォーニング」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ⑤ 「フラッシュ音量調整」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



- ⑥ 現在の設定が表示されます。
上下矢印ボタンで選択後 [ENTER] ボタンを押して決定します。



- ⑦ 設定が変更されました。
[ENTER] または [EXIT] ボタンを押して終了します。



- ※ 車両により「設定を変更しました。」と表示されます。

メンテナンスモード



よく使うメンテナンス機能（バッテリー交換やオイル交換など）が集約されています。

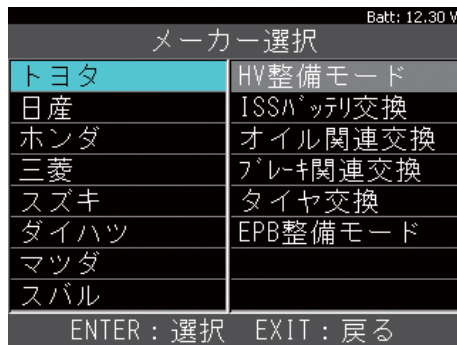
1. メンテナンスモード

各メーカーソフトで診断方法が異なります。
以下はトヨタ車の「HV 整備モード」の例です。

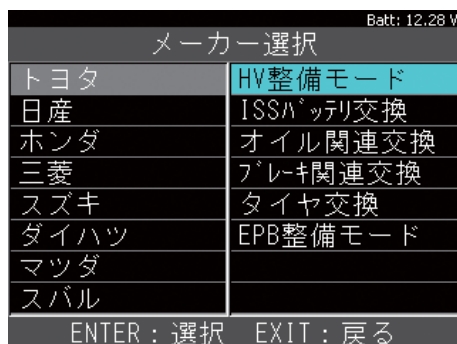
- ① 「メンテナンスモード」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



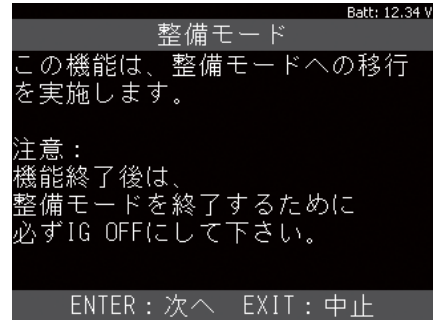
- ② 「トヨタ」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



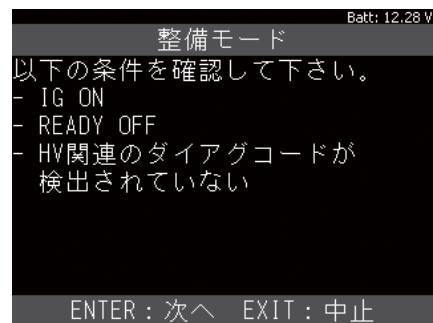
- ③ 「HV 整備モード」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



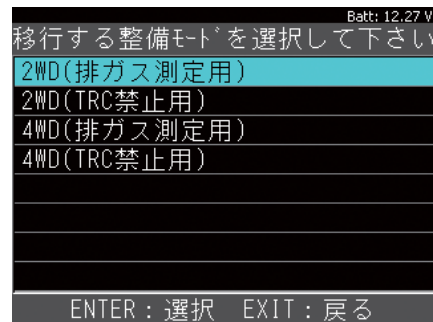
- ④ 機能説明が表示されます。
確認して [ENETR] ボタンを押します。



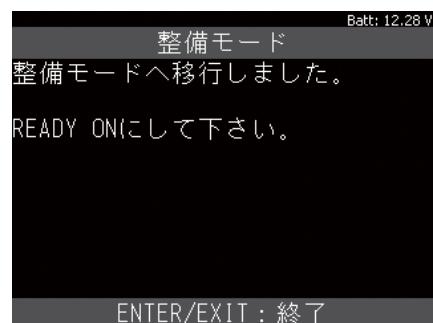
- ⑤ 実行可能条件が表示されます。
確認して [ENETR] ボタンを押します。



- ⑥ 整備モード選択メニューが表示されます。目的に応じた項目を選択して [ENETR] ボタンを押します。（排ガス測定用を実行すると TRC 禁止も同時に行われます。）



- ⑦ 整備モードへ移行しました。
ブレーキペダルを踏んで、イグニッションスイッチを押してエンジンを始動します。



※整備モードのまま道路上を走行されると、トランスアクスルを破損する場合があります。走行される際は整備モードを解除してください。

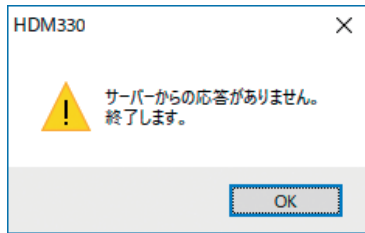
トラブルシューティング

故障かな?という場合には、以下の症状、原因と処置をご参照ください。

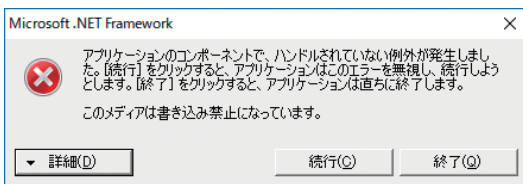
本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または(株)日立オートパーツ&サービスにお問い合わせください。

症状

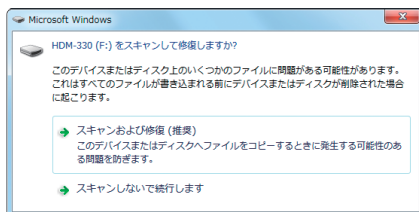
アップデートの際、「サーバーからの応答がありません。」とメッセージが表示されてアップデートが行えない。



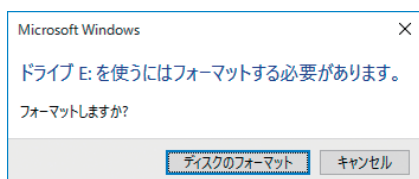
アップデートの際、アップデートチェックボタンを押してもメッセージが表示されてアップデートが行えない。



パソコンに接続すると「スキャンして修復しますか?」のメッセージが表示される。



パソコンに接続しても「フォーマットする必要があります」とメッセージが表示され、HDM-330のドライブが表示されない。



原因と処置

パソコンの設定やセキュリティソフトの設定を確認してください。

設定はパソコンの管理者またはセキュリティソフトのメーカーへお問合せください。また、インターネットが正常に接続されているか確認してください。

セキュリティソフトやパソコンの設定で外部メモリへの書き込みが禁止されている場合があります。事前に設定などを確認した上で、29ページの**処置 1**を実施してください。

それでも症状が変わらない場合は、30ページの**処置 2**を実施してください。

修復することにより問題が解決する場合がありますので、32ページの**処置 3**を実施してください。

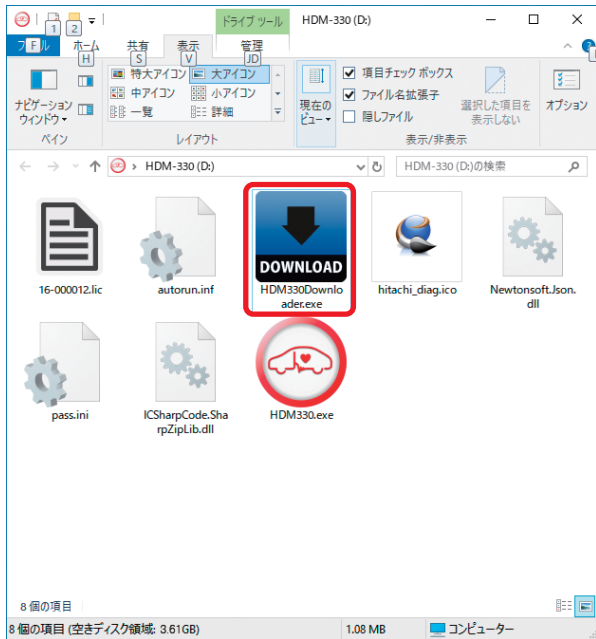
お手数ですがご購入された販売店へご連絡ください。

トラブルシューティング

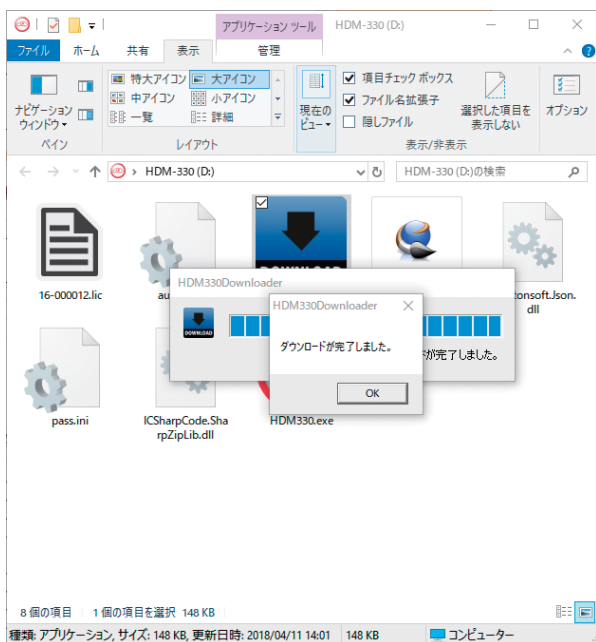
処置 1 アプリケーションを最新にする

アプリケーションを最新にすることにより、アップデートが行える場合があります。

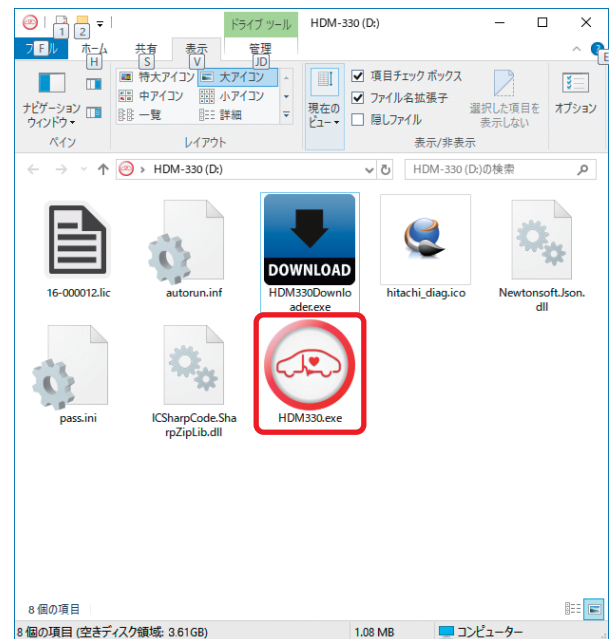
- ① 「HDM330」フォルダ内にある HDM330Downloader.exe をダブルクリックしてください。



- ② HDM330.exe のダウンロードが実行されます。



- ③ 上書きされた HDM330.exe をクリックして、アップデートを実行してください。



トラブルシューティング

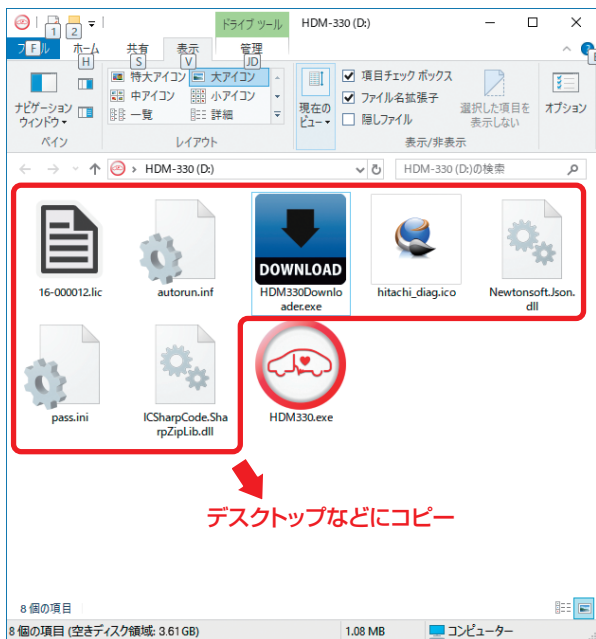
処置 2 フォーマットする

アプリケーションを最新にしても書込みができない時は、フォーマットすることにより正常に書込みができる場合があります。

この作業は先に必要なファイルをパソコンにバックアップ（保存）することから行います。

- 10 ページの①—②を行って「HDM330」フォルダを開きます。
- ② 以下のファイルをコピーしてパソコンのデスクトップなどに保存してください。

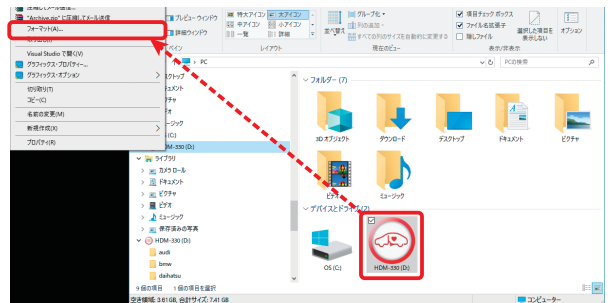
- ・ HDM330Downloader.exe
- ・ pass.ini
- ・ autorun.inf
- ・ hitachi_diag.ico
- ・ Newtonsoft.Json.dll
- ・ ICSharpcode.SharpZipLib.dll
- ・ 拡張子が .lic のファイル



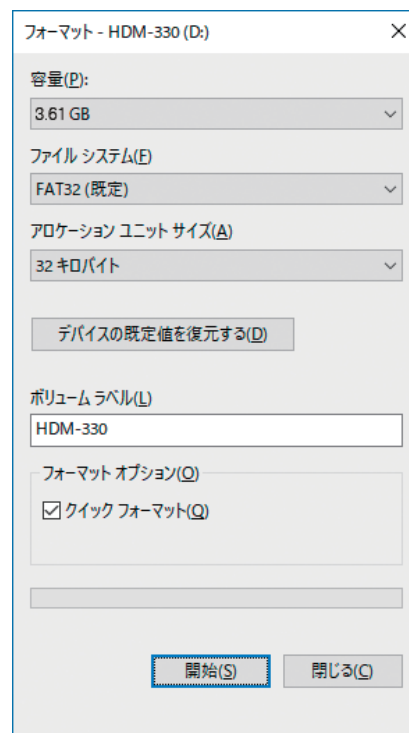
※「Reports」フォルダは、故障コードやデータ表示などで [保存] を実行した場合にファイルが保存されているフォルダです。保存していなければコピーする必要はありません。

- ③ ファイルのバックアップ（保存）が完了したらフォーマットを開始します。「HDM330」を右クリックして「フォーマット」をクリックします。

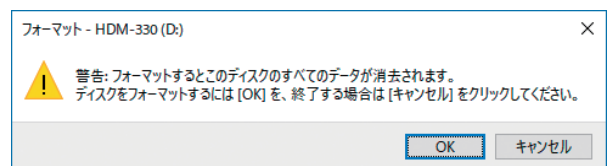
※フォーマットするドライブにご注意ください。



- ④ フォーマットの画面が表示されますので、[開始] をクリックします。

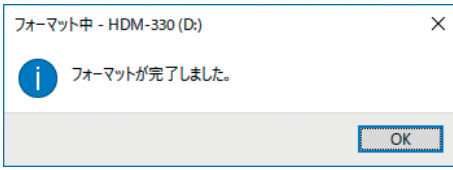


- ⑤ フォーマットの確認メッセージが表示されます。確認して [OK] ボタンをクリックします。

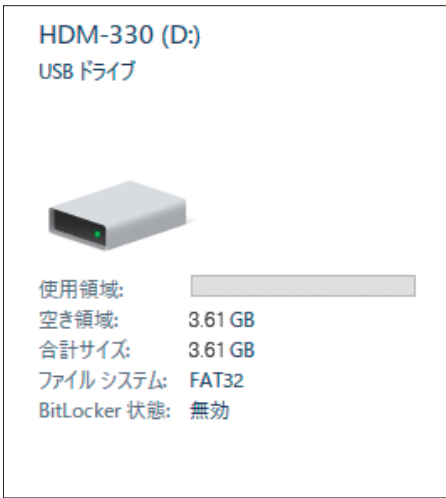


トラブルシューティング

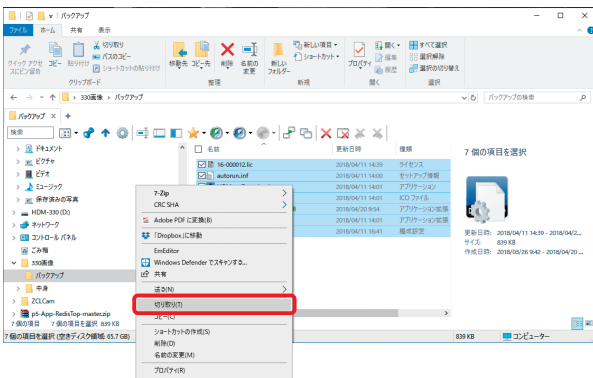
- ⑥ フォーマット完了のメッセージが表示されます。
[OK] ボタンをクリックします。



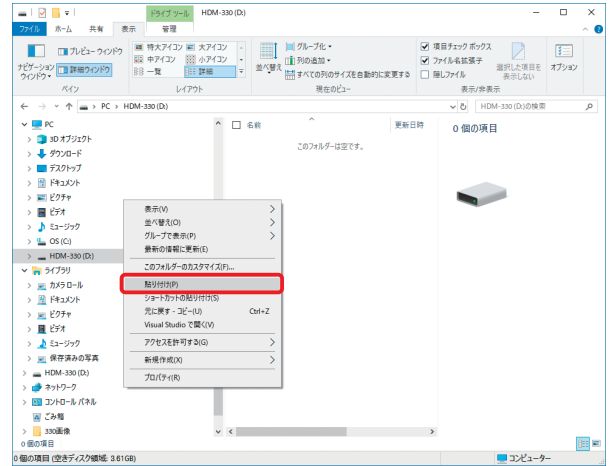
- ⑦ フォーマットが完了すると、通常のリムーバブルディスクのアイコンに変わります。



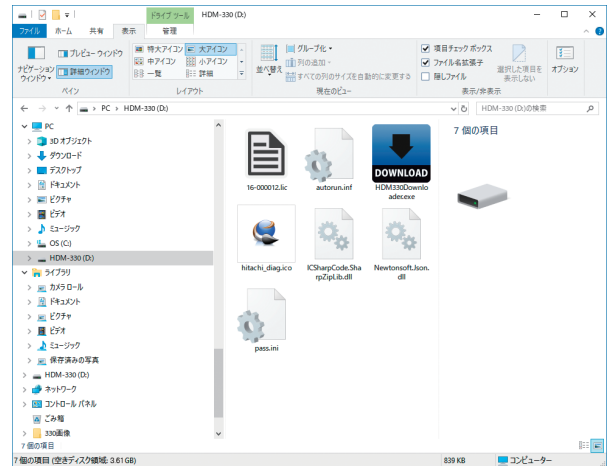
- ⑧ 先程バックアップ(保存)したファイルを右クリックして「切り取り」または「コピー」します。



- ⑨ フォーマットが完了した「HDM330」(リムーバブルディスク) に右クリックしてファイルを貼り付けます。



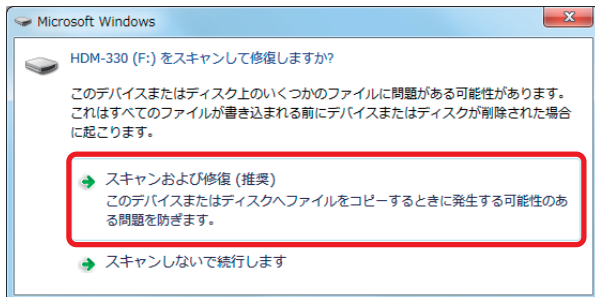
- ⑩ 貼付が完了されましたら「HDM330Downloader.exe」をダブルクリックして、「HDM330.exe」をダウンロードしてください。
ダウンロードした「HDM330.exe」をクリックして起動した後、10ページを参考にアップデートを行ってください。



トラブルシューティング

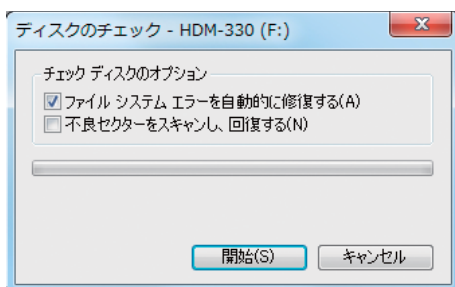
処置 3 修復をする

- 1 パソコンに接続する際に表示したメッセージで、「スキャンおよび修復」をクリックします。

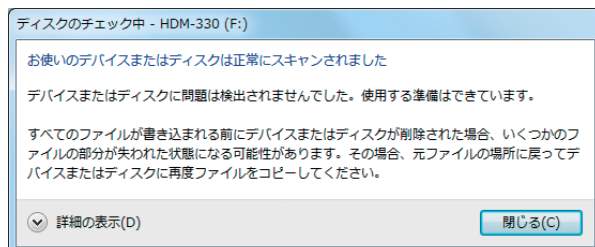


- 2 「ディスクのチェック」※が表示されましたら、「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」にチェックを入れ、「開始」をクリックしてください。

※ OS により「エラーチェック」と表示されます。「エラーチェック」と表示された場合は「ドライブの修復」をクリックしてください。



- 3 正常にスキャンされました。
[閉じる] をクリックして終了します。



ホームページのご案内

日立ダイアグモニタ専用ホームページより、HDM-330 の製品情報やオプションソフトの申し込み方法、料金についての案内を閲覧することができます。以下の URL にアクセスし、関連ページへおすすみください。

1. 日立ダイアグモニタ専用 ホームページ URL

http://www.hdm.hitachi-autoparts.co.jp/hdm_usr/html/index.php

HITACHI Inspire the Next

日立ダイアグモニタ

日立オートパーツ&サービス | サイトマップ | お問い合わせ

日立グループの製品・サービス | 日立グループの企業情報

日立ダイアグノスティックツール
Diagnostic Tool
HDM-330

コンパクトボディに
充実機能を搭載。
スキャンツールは、
ひとり1台の時代。

お知らせ・新製品情報はこちらをクリック

HDM-8000

- 自動車健康診断とは >
- 製品概要 >
- 対象車両 >
- 対応機能 >
- 診断ソフトのダウンロード年会費について >
- 取扱説明書/付属品など >
- Q & A >
- 初期設定手順 >
- 操作ガイド >
- ソフトウェアバージョンアップ履歴 >
- 機能・チェッカー紹介動画 >

HDM-330

- 製品概要 >
- 対象車両 >
- 対応機能 >
- 診断ソフトのダウンロード年会費と本体保証（重要）について >
- 取扱説明書一覧 >
- Q & A >
- 初期設定手順 >
- トラック、輸入車ソフトについて >
- 操作ガイド >
- ソフトウェアバージョンアップ履歴 >

各種チェッカー

- バッテリーチェッカーHCK-601FB >
- イグニッションコイルチェッカーHCK-701B >
- デジタルメカニクケージHCK-801B >
- タイヤプレッシャーゲージHCK-901B >
- ハンディオシロスコープHCK-501 >

ユーザーサポートなど

- 故障診断サポートセンターのご案内 >
- お問い合わせ >
- 個人情報取り扱い方針 >
- 日立HDM3000・AP5専用HP >
- 技術講習会のご案内 >
- メディア掲載情報 >

バックナンバーはこちら >

お知らせ・新製品情報

2016年07月07日 **HDM-8000** 【動画】HDM-8000ダイアグモニタ 故障診断編 >

2016年07月07日 **HDM-8000** 【動画】HDM-8000ダイアグモニタ クルマの健康診断 再入庫編 >

2. 株式会社日立オートパーツ&サービス 通常ホームページ URL

<http://www.hitachi-autoparts.co.jp>

3. HDM-330 製品情報 URL

http://www.hitachi-autoparts.co.jp/products/hdm/hdm_330.html

製品情報の閲覧や取扱説明書 (pdf) などのダウンロード / 印刷が可能です。

その他、製品に関する最新情報やアップデート情報をホームページ上にてご案内いたします。定期的にメンテナンスを実施いたしますので、詳細につきましてはホームページにてご確認ください。

保証

保証期間：ユーザー登録から 1 年間

期間終了後 1 か月以内にアップデート延長を申し込みされた場合に限り、本体保証も 1 年間延長されます。アップデートおよび保証期間は HDM-330 の電源を入れていただき、「本体 ID」からご確認いただけます。

保証規定

1. 取扱説明書などの注意書に基づくお客様の正常なご使用状態のもとで保証期間内に万一故障した場合、無料にて故障箇所の修理をさせていただきますので、お買い上げの販売店にご依頼ください。
2. 本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については弊社はその責任を負わないものとします。
3. 不当な改造については弊社は一切の責任を負わないものとします。
4. 修理品のご持参、お持ち帰りの交通費、または送付される場合の送料および諸掛りはお客様のご負担となります。なお、ご送付の場合は適切な梱包のうえ、紛失防止のため受け渡しの確認できる手段（簡易書留や宅配など）をご利用ください。
5. 本製品の保証延長期間は、本製品製造廃止後 3 年間とします。
6. 次のような場合には、保証期間内でも保証の対象となりません。
 - (1) お客様による輸送、移動時の落下、衝撃など、お客様の取り扱いが適切でないために生じた故障および損害。
 - (2) お客様による使用上の誤り、各構成部品の紛失、あるいは修理による故障および損害。
 - (3) 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損害。
 - (4) 本製品に接続している弊社指定以外の機器および消耗品に起因する故障および損害。
7. 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合、出張に要する実費を申し受けます。
8. 消耗部品（内蔵電池など）や USB ケーブル・OBD II ケーブルは保証の対象外となります。
9. ご不明の点は、お買い上げの販売店にご相談ください。
10. 本保証に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って本保証によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについて不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
11. 本保証は日本国内においてのみ有効です。

(This warranty is valid only in Japan.)

販売元 **株式会社 日立オートパーツ&サービス**
〒135-0062 東京都江東区東雲2-10-14

製造元 **株式会社ツールプラネット**

お問い合わせ先

本製品について、わからない点やご質問、故障の場合は、お買い上げの販売店または（株）日立オートパーツ&サービス カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

カスタマーサポートセンター TEL. 03-3527-6323 FAX. 03-3527-6324

■ 営業時間：9：00～17：30（土・日・祝日および弊社休業日を除きます）